ベトナム現地情報（2021.05.31）

ジャパン証券　北山亨

第５回「ベトナムのデリバリー事情」

5 月 25 日（火）、その日のランチタイムは普段とは異なるものとなった。そう、この日ハノイ市では昼 12 時より飲食店の店内サービスの一斉休止が始まったのだ。他にも理美容室の営業が一時休止になるなど対策の強化が進んでいる。しかしそれ以前から、ハノイ市では 4 月末からの 4 連休明けの今月 4 日から全ての学校がオンライン授業に切り替わっており、市民が一丸となってコロナ感染防止に努めている。

コーヒーショップも店内の椅子が片付けられていた。

飲食店街も閑散、25 日のお昼

ハノイの巣ごもり

現在筆者は在宅勤務をしており、お昼はデリバリーを頼むことにした。ベトナムではこのデリバリーサービスが発達している。ファストフード店、レストランはもとより、街のローカルフード店でもデリバリーアプリを使えば、自宅まで温かい食事が届くのだ。この点は日本よりもはるかに進んでいる。それを可能にしたのは、ベトナムが誇るバイク文化である。ベトナム

は都市部でも地下鉄、電車網がまだ発達していない。そこでコストが安く、小回りの利くバイクはまさに生活の足。このようにバイクは人々の生活に溶け込んでおり、デリバリーサービスを請け負う配達員も普段からバイクに慣れ親しんだ者が多いため、デリバリーを始めるハードルは低いと思われる。

また利用されるデリバリーアプリは主に GrabFood[1]、Baemin[2]、Now[3]、Gojek[4]などがあり、アプリ同士の競争も激しい。

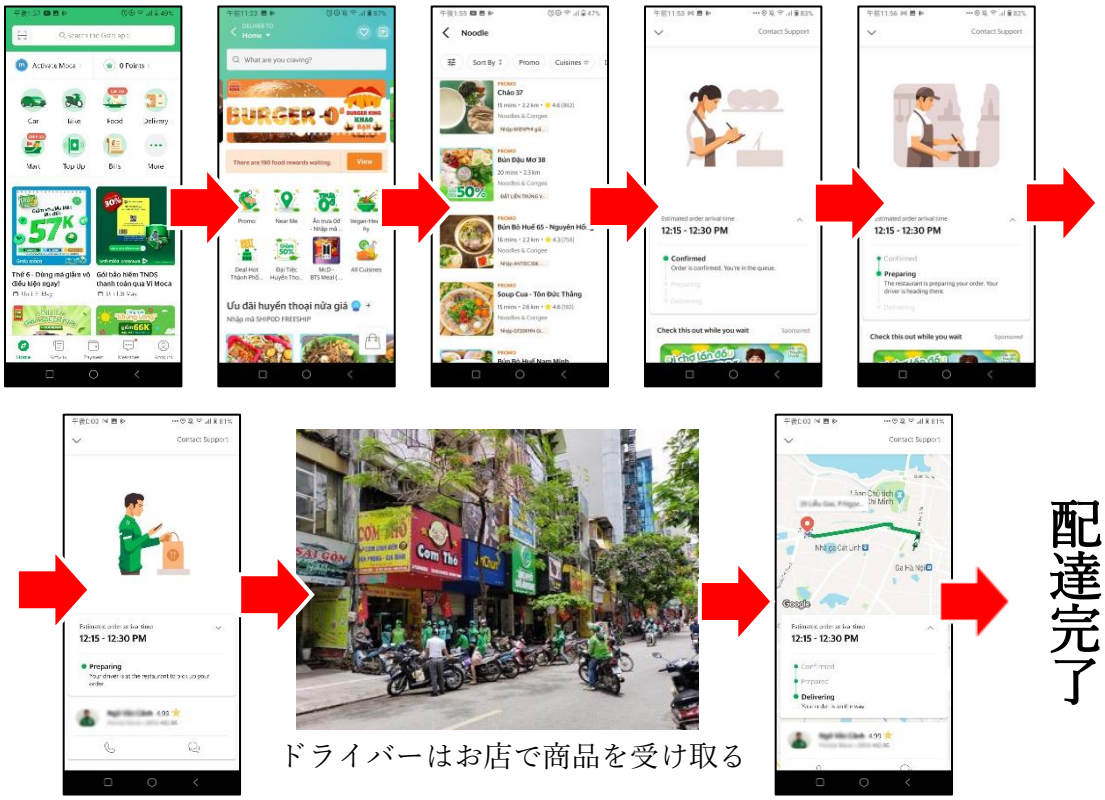
人気店の前には配達員が群がる

お店の目立つところに対応しているデリバリーアプリのシールが貼られてある

「持ち帰りのみ可」という張り紙（ハノイ市内のローカル飲食店）

[1] グラブ：マレーシアで生まれた東南アジアで利用される配車アプリの代表格。配車から小包配送、デリバリーと様々な機能を備えているのが特徴。
[2] ベミン：「配達の民族」という意味の韓国最大のデリバリーアプリのベトナム版。運営会社はウーワ・ブラザーズ。2020 年にドイツのデリバリーヒーローに買収され、その傘下に入った。
[3] ナウ：ベトナム産のデリバリーアプリ。運営を行う国内最大のグルメサイト Foody（2012 年にホーチミン市で設立）には、日本のサイバーエージェントベンチャーが出資している。
[4] ゴジェック：ジャカルタに本社を置くインドネシア発の配車アプリ。グラブ同様、デリバリーなど様々な機能を兼ね備えている。

【図解】フードデリバリーが届くまで



ドライバーはお店で商品を受け取る

まずグラブのアプリケーション画面を開くと、各種サービス（バイク・車の配車、食べ物・小包のデリバリーなど）を選択する画面が出てくる。デリバリーを選択すると、次にお店とメニューを選択する画面に切り替わる。その後、支払い方法など全ての手続きが完了すると、あとは商品の到着を待つのみである。また注文状況がどうなっているのか、随時スマホで確認できる。

ディスクレーマー

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。 本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。 結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。 執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。 このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようにお願いいたします。